

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0991100025		
法人名	有限会社マイホームコーナ		
事業所名	グループホーム来夢		
所在地	栃木県矢板市石関1317-3 (電話) 0287-41-8201		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年10月6日	評価確定日	平成21年11月6日

【情報提供票より】(平成21年9月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤6人, 非常勤3人, 常勤換算6.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	・水道光熱費—600円/日 ・日用品費—100円/日 ・娯楽教養費—100円/日 ・個人電気代—100円/日 ・理美容代、おむつ代—実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年9月8日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84.6 歳	最低 75 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	矢板南病院、鈴木歯科医院、植木医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、JR片岡駅からほど近いが、畑や自然に囲まれた閑静な場所に位置している。ホームの名称である「来夢(くるむ)」には、「来る夢」と「包む(くるむ)」という意味があり、入居者を大切に思う気持ちが込められている。法人代表は、病院勤務を経験する中で、患者の人権や人格を尊重したいという思いが深まり、それらを実現するために、通所介護や在宅所の運営経験を経てグループホームの開所に至っている。「自分も家族も受けたい介護」を目指しており、その考え方には職員にも浸透していることが入居者の笑顔から伺える。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員は自己評価を通して日頃のケアについて振り返る機会になった他、前回の外部評価結果を会議等で話し、改善に向け取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員が分担して各々が作成し、その後職員間で検討を加えたものを、管理者が取りまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、入所者、家族、民生委員、有識者、自治会長、地域住民、市担当職員等がメンバーになり2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの様子などを報告し、メンバーから具体的な意見等を出してもらい、サービスの向上に役立っている。また、地域住民を対象とした認知症の理解を図るための勉強会を本年中に実施したいと考えている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に苦情相談の窓口を明示している他、運営推進会議でも苦情や要望を述べてもらう機会としているが、苦情は寄せられていない。また、家族が面会に訪れた際の会話の中から意見や要望を取り入れ運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に加入し、回覧板の回覧も行っている。自治会長は、運営推進会議の構成員になってもらっており、地域の情報も把握しやすく、お祭り等の地域の行事にも参加し交流を図っている。また、入居者との散歩時にゴミ拾いを行い、近隣住民から声をかけられたり、感謝されるなど交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人格の尊重と自分が受けたケアの提供」を目指して3つの理念を定めている他、2ヶ月毎に職員間での話合いにより、「元気」「笑顔」等の目標も定めている。理念については、施設の共用スペースにて掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議の開催において、入居者の支援について話し合ったり、テーマを決めた勉強会を実施し、法人の理念や施設方針に沿った支援ができるよう努めている。また、朝夕の申し送りの際に、理念を唱和し共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、回覧板の回覧も行っている。自治会長は、運営推進会議の構成員になってもらっており、地域の情報も把握しやすく、お祭り等の地域の行事にも参加し交流を図っている。また、入居者との散歩時にゴミ拾いを行い、近隣住民から声をかけられたり、感謝されるなど交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が参加し、各々が分担して自己評価を記入し、管理者がまとめた。職員間で検討を加える方法で自己評価を行い、職員は自己評価を通して日頃のケアについて振り返る機会になった。	○	評価結果を活かして、更に計画的に改善事項に取り組まれることを期待したい。

グループホーム来夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入所者、家族、民生委員、有識者、自治会長、地域住民、市担当職員等がメンバーになり2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの様子などを報告し、メンバーから具体的な意見等を出してもらい、サービスの向上に役立っている。また、地域住民を対象とした認知症の理解を図るための勉強会を本年中に実施したいと考えている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の課題や不明点などについては、市担当者にその都度相談している。また、市担当者には運営推進会議の構成員をお願いしている他、市内のグループホームとの情報交換会議の参加も得ており、指導や情報提供を受ける等の連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が毎月来所して利用料の支払いを行っており、その際に入居者の健康状態や様子を記載した書面により報告している。また、年2回発行している広報誌「来夢だより」に行事や生活状況等を掲載して知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談の窓口を明示している他、運営推進会議でも苦情や要望を述べもらう機会としているが、苦情は寄せられていない。また、家族が面会に訪れた際の会話の中から意見や要望を取り入れ運営に反映させている。	○	ホームとしては、家族等からの苦情や要望によって、ホームが成長したり、改善すると考えている事から、苦情相談機関を複数提示することにより、更に苦情を出しやすい環境を整える意味で、重要事項説明書に「国民健康保険団体連合会」や「運営適正化委員会」等を追加することを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでに、管理者や看護師等の異動があったが、後任への引き継ぎを徹底して、入居者の支援に影響が出ないように配慮している。管理者は、職員から意見を聞いたり、話し合いを行うことにより、働きやすい環境づくりに配慮している。		

グループホーム来夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の勉強会では、テーマを決め、職員が順番に担当し実施している。外部研修については、希望する職員が参加し、会議で報告を行い研修情報の共有をしている。今年度は、現在までにAED（自動体外式除細動器）使用方法、認知症関係の研修会に参加している。	○	管理者や職員がそれぞれの段階に応じた研修を受講できるよう、研修計画を立てての取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にある3箇所のグループホームと定期的に情報交換会を開催し、日頃の問題点や取り組みの状況などの情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者によってはホームに馴染むまでに時間がかかる事もあるが、入居前の施設見学や不安を取り除けるよう話を良く聞く等、入居者の緊張や不安の軽減に努めている。入居当初は、職員全員で本人が雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から体験談等を聞き、入居者の得意なことを活かして、うどん打ちや饅頭づくりなどの機会を作っている他、畑仕事、郷土料理、季節の行事に伴う料理等を入居者から教わる等、職員と入居者が共に支えあう関係づくりに努めている。		

グループホーム来夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族等との会話をとおして、本人の意向にそった支援になるよう努めている。意向の表出が困難な場合は、言葉の端々から思いを察し、それをケース記録や個人情報用紙に記載し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる入居者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見や要望等を事前に聞いたうえで、医師や関係機関との連携を図り、計画作成担当者が介護計画を作成し、本人や家族に対して計画内容の説明を行い、同意を得ている。また、担当制により、各職員がそれぞれ1～2名の入居者を担当しており、担当職員の意見も反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて介護計画の評価を実施している。状況の変化に伴う見直しは、担当者を中心としてカンファレンスなどで対応を確認している、新たな計画策定については本人のニーズを中心に行っているため、現状では変更数は少ない。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の急な外出、外泊に応じたり、家族に代わって通院の支援を行う事もある。また、法人内のデイサービスの車や職員の応援を得て柔軟な支援をしている。		

グループホーム来夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関で受診ができるように支援している。受診の際は、受診ノートを活用し、受診結果に関する情報の共有を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合や終末期の対応について、家族に説明を行っている。病状等の変化時には、その都度家族に説明を行い対応している。ホームとしては、重度化や終末期のケアについては、本人・家族の希望に沿った支援を行いたいと考えているが、現状では対応が難しい事から、全職員での方針の共有化は図られていない。	○	ホームとして「出来ること・出来ないこと」を見極めながら、かかりつけ医等の関係機関との連携を重ね、全職員でホームの方針を共有していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者一人ひとりを尊重し、ケア全体について同じ意識で対応するようスタッフ会議で統一を図っている。声かけや接遇についても勉強会やカンファレンス等で対応のあり方について検討を加えている。入居者の個人記録等は、事務室内に適切に保管されており、持ち出し禁止としている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームには、1日の大まかな日課はあるが、入居者の訴えや要望をできるだけ取り入れ、その日の過ごし方については個々のペースにあわせた支援をしている。		

グループホーム来夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、担当の職員が作成しているが、入居者から、その日に別のものが食べたいとの要望があれば臨機応変に対応している。また、食事の準備、配膳、下膳、洗物、テーブル拭きなどで入居者ができるものは職員と一緒にしている。当日は、入居者が職員と楽しく会話をしながら食べていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、希望に合わせて時間や曜日の変更はできるようにしている。仲の良い人同士で入浴することもある。入浴には、1人の職員が対応し、ゆっくりくつろいで入浴できるように支援している。浴槽はヒノキ作りで入りやすく配慮され、入浴が楽しめるよう工夫されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴や現状の能力を考慮し、本人に合った活動ができるよう支援している。草むしりや庭いじりが好きな入居者は職員と一緒に花壇や畑作業をしたり、うどん打ちや餃子作り、饅頭作りが得意な人には、腕をふるってもらおう等、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。	○	入居者の意思や気持ちを大切にしながら、一人ひとりの好みや能力を活かしながら、前向きな気持ちを引き出すような工夫を引き続き期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園等に散歩に出かけたり、花壇や畑の手入れをしたり、買い物に出かけたりしている。歩行が困難な入居者も戸外に外出できるよう支援している。職員によって、ホーム周辺の危険箇所を調べることを検討している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	J Rの線路の踏み切りに近いことと市の地域密着型サービス運営委員による指導から、入居者の安全確保のため中扉を施錠している。閉塞感を生じさせないよう散歩をまめにするなど対応している。	○	見守りの方法も含め、鍵を掛けずに安全に過ごせるための工夫を運営推進会議等で協議するなど、鍵をかけないケアの取り組みに期待したい。

グループホーム来夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を実施している。5月に実施した1回目では、消防署員の指導を得ながら夜間時を想定した避難訓練を行い、色々な課題が見えてきたことから、今後も夜間時を想定した訓練を実施していく予定である。	○	今後も消防署員の指導を得ながら定期的に避難訓練を実施すると共に、災害時に地域住民から協力が得られるよう働きかけやネットワークづくりを進めて行くことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作成している職員が1日のカロリー計算を行っている。職員は、入居者一人ひとりの食事や水分の摂取量を把握しており、朝の牛乳やおやつフルーツなど栄養のバランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節の花の活け花やプランターがある。食堂を兼ねる居間には、入居者の作品や行事の写真が飾られており、快適な空間作りに配慮されている。不快な音や光、空気のだよみや気になる臭い等はなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、使い慣れたタンス、机、椅子、テレビ、布団、置き時計などが持ち込まれている。入居者の希望により、畳が敷かれた居室もある。持ち込みの少ない入居者も見られた。	○	居心地良くプライバシーを大切に安心して過ごすための環境づくりの工夫には、職員の協力が必要である。持ち込みの少ない人に対しては、本人の意向を確認しながら、その人らしい居室づくりに取り組むことを期待したい。

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。